

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	作業センター所長 小田切 勝己	
都整-32	下水道事業(企業会計)	☒ 自治事務	主管課	作業センター
		☐ 法定受託事務	関連課	道水路管理課・下水道経営課・下水道河川課・浄化センター
総合計画上の位置付け	分野	5-(6) 下水道・河川	施策の方針	5-(6)-①下水道の整備・管理

1 事業の目的	
対象	市民等
意図	老朽化した下水道施設を計画的に維持管理し、安定的な下水道事業運営を行う。
効果	安定した下水道処理が図られ、市民の生活環境の向上を図る。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要	
河川・下水道施設等の修繕を行った。	

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	污水管渠費	市民要望等による下水道施設等の維持修繕	-	- / -	-	-	-
				5,846 / 8,473	8,629	8,629	-
02	雨水管渠費	市民要望等による河川施設等の維持修繕	-	- / -	-	-	-
				1,595 / 1,789	1,789	1,789	-
03							
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	1,595 / 1,789	1,789	1,789	
			一般財源	5,846 / 8,473	8,629	8,629	
			事業費の合計(千円)	7,441 / 10,262	10,418	10,418	
			人件費(千円)		53,482	35,855	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)						
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	7.0	7.8	8.8	9.8	6.8	4.2
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	汚水管渠費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しないこととした。	下水道施設等の修繕等対応を行うことで市民生活の安全性、利便性、快適性に寄与していることから、構成する事業としては、妥当である。	経年劣化による下水道施設等の修繕要望が増加している一方、職員の高齢化・減員により要望処理率が低下している。一層の事務効率化と職場全体の業務マネジメントにより、継続的な事務環境整備を図った。
02	雨水管渠費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しないこととした。	河川施設等の修繕等対応を行うことで市民生活の安全性、利便性、快適性に寄与していることから、構成する事業としては、妥当である。	経年劣化による河川施設等の修繕要望が増加している一方、職員の高齢化・減員により要望処理率が低下している。一層の事務効率化と職場全体の業務マネジメントにより、継続的な事務環境整備を図った。
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施	△-2 市民等と協働して実施する事業はない
			協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価

※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
汚水管などの補修、機能維持を図り、市民生活の利便性を確保するよう努めていく。 市民生活へ貢献寄与しており、迅速に成果を出している事業となっている。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	水質保全貢献率						単位	mg/l
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
公共下水道事業の大きな目的である「公共用水域の水質の保全」への貢献度を示すことで、都市の持続的かつ安定的な発展を目指すもの。 (放流水BOD)	目標値	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下	
	実績値	最大値 山崎浄化センター 10 七里ガ浜浄化センター 4.8	最大値 山崎浄化センター 12 七里ガ浜浄化センター 5.4	最大値 山崎浄化センター 8.0 七里ガ浜浄化センター 3.7	最大値 山崎浄化センター 9.1 七里ガ浜浄化センター 4.1	最大値 山崎浄化センター 14 七里ガ浜浄化センター 5.1		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)	公衆衛生貢献率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
公共下水道事業の大きな目的である「公衆衛生の向上」が安定的に実施されているか否かを示す係数 (365日-事故等により広範な地域に下水道の仕様制限等を与えた日数)/365日	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)	生活利便影響率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
下水道使用者が、最終枳のつまり等で排水困難となり、生活の便利にどの程度影響を与えたかを示す係数 (通報件数/現在水洗便所設置済人口(決算統計10表12列))×100	目標値	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	
	実績値	0.02	0.02	0.04	0.03	0.03		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)	不明水率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
下水道事業における不明水は、下水道経営の悪化の原因になるとともに、衛生上のリスクの増大、公共用水域の水質保全などの影響が懸念される「下水道事業の問題のひとつ」であり、自治体自らが不明水の実態および不明水の増加傾向などを把握することで、より健全な下水道経営と様々なリスクの事前回避を実現することが可能となる。 (年間総処理水量(決算統計10表01行49列)-年間有収水量(決算統計10表01行52列))/年間総処理水量×100	目標値	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
	実績値	14.2	14.4	12.6	9.1	9.7		
	達成率	70.7%	69.4%	79.4%	109.7%	103.1%		

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--